

一般口演

一般口演30

臨床検査・物流・IoT

2017年11月23日(木) 12:45 ～ 14:15 I会場 (10F 会議室1009)

[4-I-2-OP30-2] TAT（Turn around Time）管理改善の取り組み

臼井 哲也¹, 賀来 敬仁², 柳原 克紀²（1.長崎大学病院 検査部, 2.長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科）

【目的】

近年、診療前検査や緊急検査での結果を迅速に報告するために、TAT（Turn around Time 以下 TAT）管理をすることが求められている。当院の TAT 管理には検査システムの機能を活用した管理を行っているが、現在の機能では TAT の平均時間のみの評価であり、極端に時間を要した検体があると平均時間が伸びるため、該当する検体情報を検索する機能はなく、問題を把握するのに時間を要する。そこで今回、平均時間による管理だけでなく TAT 目標時間に対する達成率（目標時間以内に報告できた件数の割合）による管理を行うことで、TAT をより詳細に評価することが可能な検査システムに改善したので報告する。

【対象・方法】

対象は、外来迅速検体検査加算項目である血液、生化学項目とし、今までは、TAT は検査部での到着確認から結果報告を採血終了から結果報告までとし、TAT の分布と達成率を評価した。

【結果】

現在の検査システムでは TAT の平均時間、最大経過時間、最小経過時間、テスト数、容器数のみの評価であったのが、今回の改善により極端に時間を要した検体情報（患者情報）も容易に抽出することが可能になった。さらに、TAT 目標時間に対する達成率が評価可能となり、月ごとので集計を実施し、曜日ごとの TAT 目標時間達成率推移を加えることで詳細に評価することが可能になった。さらに、TAT が遅延している患者情報を簡便に入手できるため、原因追及も容易になるため、評価もしやすくなると思われる。

【まとめ】

TAT の平均時間に加え TAT 目標時間に対する達成率や遅延している患者の追及などを評価することで、検査室の業務改善の有効な手段となり、TAT 短縮による患者サービスの向上を図っていきたい。

TAT (Turn around Time) 管理の取り組み-

白井 哲也*1、南 惣一郎*1 賀来 敬仁*2 柳原 克紀*2

*1 長崎大学病院 検査部、*2 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、

Efforts to improve TAT (Turn around Time)

Tetsuya Usui*1、Norihito Kaku*2, Katsunori Yanagihara*2

*1 Department of Laboratory Medicine, Nagasaki University Hospital, *2 Department of Laboratory Medicine, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Science,

Abstract in English comes here.

In recent years, in order to promptly report the results of laboratory results, "Turn around Time management" is required. Although our hospital also manages TAT management by utilizing the function of the inspection system, the present function only evaluates the average time of TAT, and it takes time to grasp the problem.

In this time, we improved to an inspection system that can evaluate TAT in more detail not only by management based on average time but also by controlling achievement rate against target time.

By evaluating the achievement ratio to the TAT target time, it will be an effective means of improving the work of laboratories and we would like to contribute to medical service work by shortening TAT.

Keywords: TAT(Turn around Time)、 LIS(Laboratory Information System)、 Business Improvements

【はじめに】

近年、診療前検査や緊急検査での結果を迅速に報告するために、TAT(Turn around Time 以下 TAT)管理をすることが求められている。また、ISO15189:2012 の14.7 品質指標の項で、TAT について、検査室は、利用者と協議して、臨床のニーズを反映した個々の検査の所要時間を確立しなければならない。検査室は、確立した所要時間を満たしているかどうかを、定期的に評価しなければならないとあるが、評価方法が確立されていないの現状である。

当院においてもTAT管理には検査システムの機能を活用した管理を行っているが、現在の機能ではTATの平均時間のみの評価のみであり、極端に時間を要した検体があると平均時間が伸びるため、該当する検体情報を検索する機能はなく、問題を把握するのに時間を要する。

【目的】

今回われわれは、平均時間による管理だけではなくTAT目標時間に対する達成率(目標時間以内に報告できた件数の割合)による管理を行うことで、TATをより詳細に評価することが可能な検査システムに改善したので報告する。

【対象・方法】

対象は、外来迅速検体検査加算項目である血液、生化学項目とし、TATは検査部での到着確認から結果報告までとし、到着確認から結果報告のTATの分布と達成率を評価した。

【結果】

現在の検査システムでは TAT の平均時間、最大経過時間、最小経過時間、テスト数、容器数のみの評価であったが(図1)、

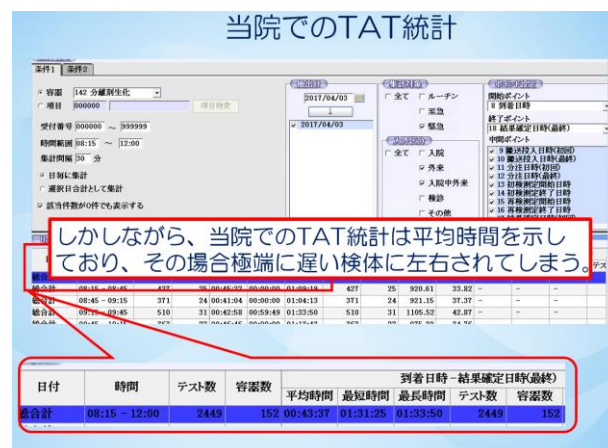


図1 現在の TAT 統計

今回の改善により、・TAT を目標時間に対する達成率で管理する。・TAT の把握と問題点を発見しやすくする(図2)。・月毎の TAT 達成率の推移を知り、傾向を検証する。・TAT 遅延の要因分析を行い、極端に時間を要した検体情報(患者情報)も容易に抽出し、より詳細に分析することが可能になった。

【まとめ】

TAT の平均時間に加え TAT 目標時間に対する達成率を評価することで、検査室の業務改善の有効な手段となり、TAT 短縮による診療業務への貢献を図ってきたい。

参考文献

- 堀口久孝, 河合昭人, 横山雄介, 平田龍三, 阿部正樹, 杉本健一. 検査所要時間の短縮と安全性向上に向けた取り組み. 医学検査.2015;64(1):110-116
- 楠木晃三, 米田登志男, .診療内容を優先した採血システム稼働に伴う Turn around Time (TAT) の評価. 医学検査 2017;66(3):308-3146

外来迅速報告時間件数と目標時間(目標 1:00)達成率

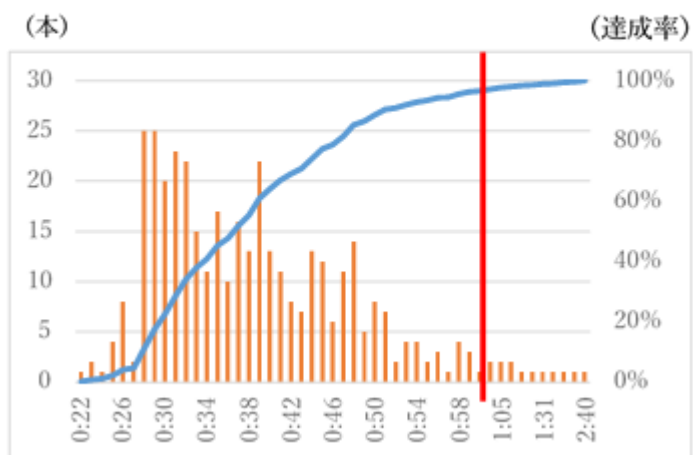


図2 TAT 達成率